

感性と行動文脈の多様性の下での QOL向上のための感性情報基盤技術の開発

研究代表者 加藤 俊一 研究員

1. 感性情報を含むパーソナルライフログ

感性の話題に、データサイエンスを応用する上での問題点：

- ◆ 膨大なデータが必要（相手は人間！）
- ◆ データの質（データの背景となる環境条件・心理条件の統制は？）
- ◆ 「個」に関する情報が埋没



データを取得するためのプラットフォームの必要性：

- ◆ 個人ごとに、自動的に・継続的に、日常生活の中で、
- ◆ **環境情報**のIoTによる計測・記録
（場所、気温、天気、人数・密集度・人の流れなど）
- ◆ **生体情報（≒心理状態）**のウェアラブルセンサによる計測・記録
（動作、姿勢、運動量、筋電、心拍、血中酸素、睡眠、集中度など）
- ◆ **パーソナルライフログ**
個人・時刻・時間順序で紐づけられた**準ディープデータ**を集積

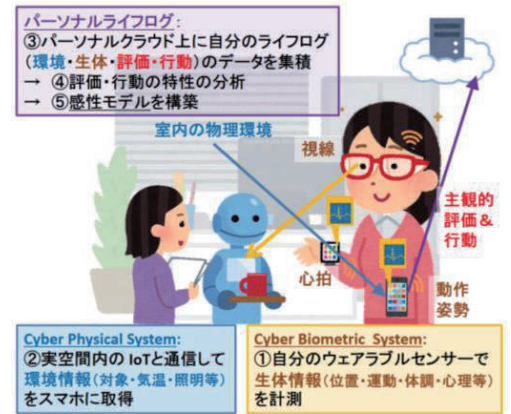
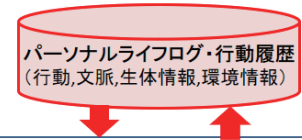


図1 感性情報を含むパーソナルライフログの集積



2. 状況認識の主観性（状況に対する感性）

状況認識と行動選択に現れる主観性：

- ◆ 個人が担う役割（自分自身、家族、社員・学生など）の優先度
- ◆ 状況に紐づけられた**行動を分類・整理する視点**
 - ◆ 時間制約・時間尺度
 - ◆ 行動の自由度・必要性
 - ◆ 行動する主体の粒度
- ◆ このそれぞれに、**主観的な優先度**が与えられる
- ◆ 個人が**担う役割**の重要度
（役割：自分自身、家族、社員・学生、サークルの一員など）
- ◆ 個人の感性に基づく**動機**の強さ
（動機：報酬・他者評価→外発的動機、向上心→内発的動機）
- ◆ **行動と経験**により**優先度が上書き**される

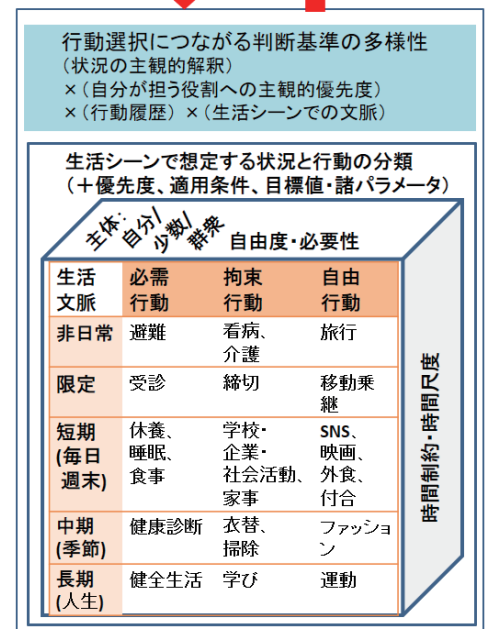


図2 主観的な状況認識・行動選択のモデル

3. 取組中・検討中の事例

- ◆ 身近なリスクの回避（マスク、三密）
- ◆ マンネリ行動からの脱出（例：学習態度）
苦手な反応→出しゃばらない支援
→理解の向上→可視化→学習習慣
- ◆ 外発的動機付けによる社会参加
- ◆ 内発的動機の強化による「運動体験」の機会増
個人のプロフィールに合わせた運動提案
- ◆ 好印象顧客体験によるロイヤリティ&利用頻度向上